



学校だより

たくま

白鷹町立荒砥小学校 令和 3年 1月28日

今、この瞬間を大切に

校長 菅原 透



新年を迎えました。“コロナトンネル”の出口が見えない中ではありますが、新たな気持ちで3学期をスタートすることができました。キーワードは「のびる」。制約が多くても、子ども達のがんばりが至る所に見られ、確実に成長している手ごたえがあります。それをより確かなものにするために、事前の「がんばる」というめあて意識を高めることはもとより、「がんばった」という充実感のあるふりかえりができるよう、集中して取り組むことを子ども達と約束しました。1月は行く、2月は逃げる、3月は去ると言われ、早くも一月過ぎようとしている短い3学期。次学年のゼロ学期に位置づけ、のびてのびて、のび続けます。

6年生のすてきな作文を紹介します。

冬休み期間は、どこに出かけることも、人と会うこともできなかつたので、ぼくは読書をしていました。

何さつか読んだ中で、「友だちはむだである」という本の感想を書こうと思います。この題名を見た時は、友だちがむだってどういう意味なんだろうと不思議に感じました。だって、ぼくは友達と話したり遊んだりすることが楽しい時間だからです。

この本の作者は、友だちはお金になるわけではない、すぐに役に立ちそうもないし、何に使ったらいいかわからないと言っていました。ぼくはびっくりしました。そんなふうに考えたことがなかったからです。読み進めていくと、ともに持

つむだな時間にこそ意味がある、そのむだがいい。つまらないことやむだなことって、たくさん持っていればいるほど魅力であるとありました。どうでもいいような話をしたり、同じ時間を友だちとすごしたりすることが積み重なって、将来のぼくをつくってくれるのだと考えることができました。



【始業式】

感動しました。「友だちがむだ」という言葉を不思議に思い、友だちと話したり遊んだりすることが楽しい時間と言い切れる…。友だちはお金になるわけではない、役に立ちそうもない、ということにビックリ…。ともに持つむだな時間つまらない時間にこそ意味があり、その積み重ねが将来の自分をつくってくれると考える心…。きっとこれまで、すてきな育ちがあったのでしょう。人との絆が心を育み、未来を生き抜く力を涵養する。荒小の子ども達みんな、「いっぱい友だちがいます」と言えるようにしなくてはと考えさせられました。家族もそうですね。ともにいることで安心できる、何気ない会話で笑顔になれる、一見価値がなさそうで「むだ」に見える時間やかかわり。その積み重ねが、生き生きした子どもを育て、あったかい家庭をつくる。コロナ禍の今だからこそ、改めてみんなで考え意識してみませんか。

